

平成26年（2014）12月 入域観光客数概況

12月の観光客数は、54万9,200人
対前年（H25）同月比 +3万3,700人、+6.5%
～歴年の過去最高記録を更新、初の700万人台～

入域状況

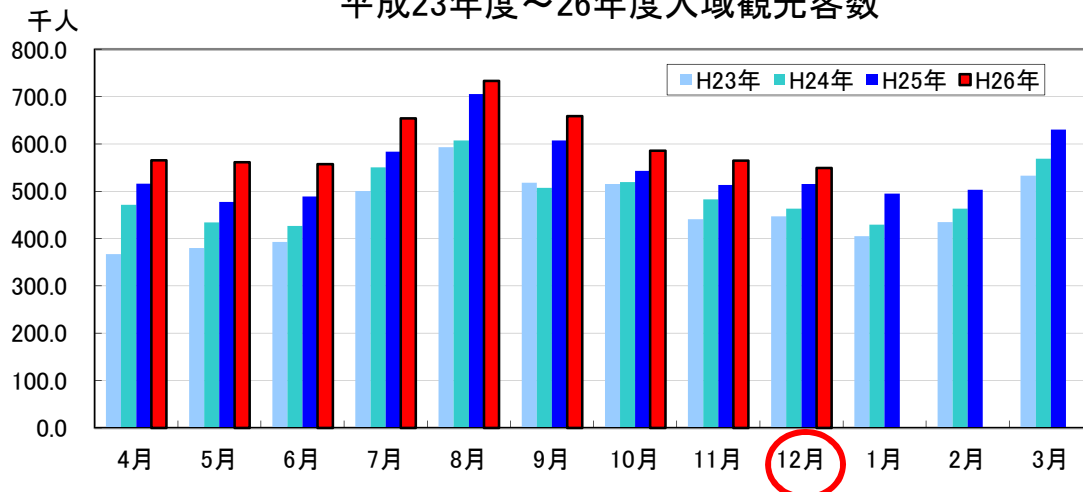
入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	484,500 人	479,300 人	+ 5,200人	+ 1.1%	88.2%
外国客	64,700 人	36,200 人	+ 28,500人	+ 78.7%	11.8%
合計	549,200 人	515,500 人	+ 33,700人	+ 6.5%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	484,500 人	479,300 人	+ 5,200人	+ 1.1%	88.3%
外国客	64,200 人	33,500 人	+ 30,700人	+ 91.6%	11.7%
合計	548,700 人	512,800 人	+ 35,900人	+ 7.0%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



国内客 入域状況

12月は、上旬・中旬は好調に推移したが、日並び等の影響により年末年始はやや減となったことなどから下旬は少し落ち込み、前年度並みとなった。

1月以降は、冬場のため落ち着く傾向にあるものの、スカイマークの札幌－那覇路線の新規就航があることから、主要方面以外からの入込増が期待できる。

外国客 入域状況

12月は、LCC2社が新規就航しソウル－那覇路線が拡充したため、韓国からの入込が大幅に増加した。クルーズ船の寄港が無い場合、海路客は減少した。

1月以降は、今年度航空路線が大幅に拡充した韓国と2月からピーチアビエーションが新規就航する香港を中心に増加する見込み。旧正月は、主要方面でチャーターが予定されている。

国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	240,200 人	244,100 人	△ 3,900人	△ 1.6%	49.6%
関西方面	93,800 人	88,100 人	+ 5,700人	+ 6.5%	19.4%
福岡方面	60,800 人	58,100 人	+ 2,700人	+ 4.6%	12.5%
名古屋	38,400 人	38,500 人	△ 100人	△ 0.3%	7.9%
その他	51,300 人	50,500 人	+ 800人	+ 1.6%	10.6%
合計	484,500 人	479,300 人	+ 5,200人	+ 1.1%	100.0%

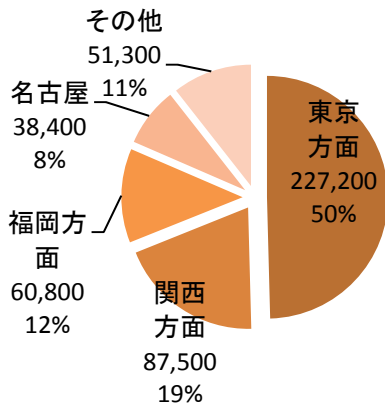
※国内海路客2,400人を含む(東京100人、関西100人、鹿児島2,200人)

外国客 国籍別入域状況

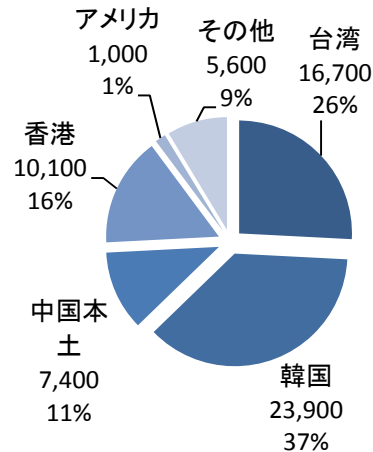
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	16,700 人	16,700 人	7,400 人	+ 9,300人	+125.7%	25.8%
韓国	23,900 人	23,900 人	9,800 人	+ 14,100人	+143.9%	36.9%
中国本土	7,400 人	7,400 人	6,300 人	+ 1,100人	+17.5%	11.4%
香港	10,100 人	10,100 人	6,400 人	+ 3,700人	+57.8%	15.6%
アメリカ	1,000 人	1,000 人	600 人	+ 400人	+66.7%	1.5%
その他	5,600 人	5,100 人	5,700 人	△ 100人	△1.8%	8.7%
合計	64,700 人	64,200 人	36,200 人	+ 28,500人	+78.7%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	16,700 人	16,700 人	+125.7%	26.0%	0 人	0 人	-	0.0%
韓国	23,900 人	23,900 人	+146.4%	37.2%	0 人	0 人	皆減	0.0%
中国本土	7,400 人	7,400 人	+184.6%	11.5%	0 人	0 人	皆減	0.0%
香港	10,100 人	10,100 人	+57.8%	15.7%	0 人	0 人	-	0.0%
アメリカ	1,000 人	1,000 人	+66.7%	1.6%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	5,100 人	5,100 人	+41.7%	7.9%	500 人	0 人	△76.2%	100.0%
合計	64,200 人	64,200 人	+111.9%	100.0%	500 人	0 人	△91.5%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

12月は、羽田からの入込は前年度並みであったが、成田からの入込は運休等により減少した。年末年始に近場の観光地を好む傾向があり、前年度を下回った。

1月以降は、年末年始の反動もあり、鈍化する見込み。団体旅行の予約状況が比較的好調に推移している。

大阪

12月は、下旬がやや鈍化したものの、月全体を通じて好調に推移し、前年度を上回った。特に関西－石垣路線が好調であった。

1月以降は、前年度並みとなる見込み。旅行会社では、低価格帯商品の販売で底上げを図る動きがある。

福岡

12月は、那覇マラソンの特需やピーチアビエーションの福岡－那覇路線が引き続き好調であったことから、前年同月を上回った。

1月以降は、個人・団体ともに好調に推移する見込み。スポーツ大会の団体特需や建設業界を中心としたビジネス需要に加え、慰安旅行・報奨旅行も好調のもよう。

名古屋

12月は、旅客の動向が鈍く、航空会社によって業績にばらつきがあったが、修学旅行客や直前の予約による底上げ、宮古・久米島へのチャーター便の運航により、ほぼ前年度並みとなった。

1月は、個人客の予約状況が良いことから、前年同月を上回る見込み。2・3月は、中部地方の市場全体で安近短な観光地が人気であり、鈍化する見込み。

台湾

12月は、冬シーズンや北海道など他地域との競合の影響があるものの、那覇マラソン等の誘客効果や航空路線拡充により、前年同月を上回った。

1月以降は、旅行会社の予約状況は不調であるが、旧正月に台北－那覇、台北－石垣間でチャーター便や機材大型化が予定されており、入込増が期待出来る。

韓国

12月は、チェジュ航空とティーウェイ航空の新規就航によりソウル－那覇路線が拡充したことに加え、就航キャンペーン等の誘客効果もあり、大幅に増加した。

1月は、冬休みの旅行需要に加え、宮古島へのゴルフチャーター便などゴルフ需要や免税制度拡大によるショッピング需要も影響し、引き続き好調に推移する見込み。

中国本土・北京

12月は、ボトム期にあたり伸びが鈍化したものの、前年度より航空路線が拡充していることから前年同月を上回った。

1月以降は、冬季シーズンのため多少伸びが落ち着くものの、1月正月と2月春節の連休を中心に入込が増加する見込み。西安－沖縄チャーターの就航が計画されている。

中国本土・上海

12月は、ボトム期に入り落ち着きつつあるものの、航空路線拡充の影響により増加した。今年はクルーズ船の寄港が無かったため、海路客は皆減となった。

1月以降は、引き続き夏場に比べ鈍化する時期だが、正月・春節の連休およびマルチビザ緩和の効果により増加が期待出来る。

香港

12月は、冬場シーズンで需要が縮小しているが、円安で訪日旅行が好調を維持していることもあり、前年同月を上回った。

1月以降は、日本国内の他地域との競合があるものの、ピーチアビエーションの新規就航や旧正月などで需要は拡大する見込み。現地の旅行社では、離島やスポーツ観光など新たな旅行商品が開発されている。